

社団法人 工学院大学 校友会

第104号 **校友会報** 31卷1号

昭和58年4月



工学院大学全国大会第二日目（昭和57年11月28日）於 京都知恩院

— — — も く じ — — —

○メモ魔……………伊藤 郷爾…表紙 2	○第37回評議員会第27回総会開催のお知らせ……………12
○地域の個性をまちづくりに……………波多江健郎… 1	○昭和57年度事業報告書……………12
○大学の発展は校友の協力で……………長嶋 秀世… 2	○昭和57年度収支決算書……………12
○等しき論と落ちこぼれに考える……………小倉 清… 3	○昭和57年度財産目録……………13
○全国大会（京都大会）報告……………広 報 部… 4	○昭和58年度事業計画（案）……………13
○昭和58年新年懇親会……………広 報 部… 6	○昭和58年度歳入・歳出予算書（案）……………13
○近況報告	○昭和58年度収支予算（案）（別途積立金、特別預り金）…14
・学校法人……………7	○定款施行細則一部変更（案）……………14
・大 学……………7	○大 学 校 名 問 題 に 関 す る 校 友 会 代 表 者 会 議
・高等学校……………9	……………間宮富士雄…15
・専門学校……………10	○支部拡充部だより……………16
○校友会だより……………11	○賛助会費徴収のお願い……………16
○総会資料・昭和57年度事務報告……………総 務 部…11	



## メモ魔

学長 伊藤 郷 爾

むかし評論家の草柳大蔵氏と、NHKテレビで対談したことがある。結論はださなくてよく、成りゆきで話がなんとなく終るといふ番組で、下打合せもなければ自分の専門とも関係ないし、出演者側としては甚だ気楽だった。もちろん題は必要なので、初めは「メモ魔」ということだったが、プロデューサーがこれは少し「はしたない」という事を変えることにした。ところが私は、その変わった方の名の方は覚えてない。

そもそも私がそれに引張り出されたのは、考えた事や初めて見つけた資料などを手帳につけていることを、プロデューサーがよく知っていたからである。その手帳が今は22冊にもなっている。時々ひっくりかえして書きこんだことの整理をしたり、原稿をたのまれた時のネタ探しに使う。しかし最大の目標は、自分の思想を発展させ、自分がみつけた資料をためこんでおくことである。

そこでその中から1冊の手帳をひきだしたら1970年のものだったというわけである。

その中から少し拾ってみよう。

(1)「特徴のない建物は、悪い特徴をもっている建物よりわるい」。これはそのころ帝國ホテルが新しく建てかえられていて、トンブソンと議論しあっていて、なんとなくでてきた言葉である。建物でなくたって、人間でも学園でもそうなんだと、きめつけていた所は若気の至りかもしれない。

(2)「政治家は利権屋。この前提にたつて政策や組織を考える。議会では欲のつっぱりあった奴が争う場所としてやりあった方が、よい公正な結果がでてくる」。

(3)「千利休は、金銭欲や政治欲に固っていたから、悠々と枯れ、最後に自殺を命ぜられても静かに死んでいくことができたのだ。枯れるとは(関西でいう)ワルを沢山やった人で、しぼむとは何もやらないできた人」。

(4)「コップをニューヨークの近代美術館で買いあげて

もらうと、もはやそのコップはビールを飲むコップとしての道具でなく、美術品となる。同じものでも環境が変われば質が変わる」。

(5)「昔はハダの色が違うというので毛ぎらいされたが、今はハダの色が違うから何か新しいことをやってくれるだろうというようになった」。これはカナダ三世のコヤナギ君の話。彼はいまトロントにいる。

(6)「フェアネス・コミッティ：不公平な委員選出をチェックする。イクオホール・オポチ・コティ」。

(7)「現代では、物体は物体でなく左にいる。ひとつの物体は、マスメディアを通じてイメージ化しており物体があっても、その物体と人との間には、コミュニケーションがない。例えば万人が広場にいても、それだけでは交流はおきない」。さしづめ今日の学園でいえば、人と物と教育・研究の質を考えただけでは、社会的に有用な存在となり、発展していく条件とはならないという事である。

(8)「江戸幕府の実権を握っていたのはミドル・クラスだった。大名はハンコ押しだけ。だから明治維新のない手はこの種の人だった」。

本学の学園将来計画大綱も、昭和58年3月18日の理事会で決定されました。大綱などに足かけ4年もかけていて、会社なら競争に負けてしまっているところだけれど、これも私の至らぬところでお許しを願いたい。少し弁解させていただくと、本学ではこのような大きなプロジェクトを考えたことがなかったので、大綱と要綱の区別がつかなかった人が大部分だったことなど、計画推進の手續きに不なれだったことを忘れていたのも一因ではなかったかと職務上反省しています。さてこれから大綱から要綱におおす段階に入るわけです。皆さんのご協力を期待する次第です。



## 地域の個有性をまちづくりに

建築学科教授

波多江 健 郎

このごろ私のところには川に関心を持つ方々から相談が多いが、どれひとつとってみても悲観的なものばかりである。

かつて川は人々の生活を支え、人々の生活の歴史とともにあった筈である。しかし利用されなくなった川はそのまま放置され、中小河川の多くは下水、排水の末端となり汚れと悪臭は、川に蓋をさせる方向に進むようである。川を埋め立てることは容易であるが、再び川をつくるにはその何十倍もの費用を要する。私はここに利水の面から、利用価値が薄れ、都市機能から無視されている川を生かして、人々の日常生活のなかに川の存在を意識出来る様にしたいと思っているものの一人である。人々が水に親しむことによって、やがてはコミュニティ意識にまで高めることが出来ないであろうか。このような発想に立って、都市の運河河川を見つめるとき、私は北米に於ける1976年200年祭を期しての国をあげての試みと運動を思い出す。各都市の自治体、大学研究室や設計事務所では200年祭の為のプロジェクトに取り組んでいた。国のレベルから州、都市、コミュニティのレベルに至る迄、それぞれの地域の持つ歴史的な或いは地域的な個有性を引き出し、それぞれの個有性を人々の現代生活の中に取り戻そうと云う発想である。かつてルイス・コンフォードをして、「一杯のポタージュを得る為に今迄持ち続けてきた個有性を破かいしてしまった」と云わしめたことに対する反省と云えようし、同時に人間存在の原点に戻って考えようとする事の表われであろう。

これは建築家や建設業者に限らず、すべての人々の発想の転換である。従来のような破かいの上に築いてきた建築や都市環境ではなく、地域の個有性を大切に生育しながら環境をつくり上げてゆこうとする事の表われである。しかし現代の様な憂うべき都市環境に対する警鐘は既に1928年地域計画家ベントン・マッケイ氏によって述べられ、その後CIAMの運動の中で1933年のテーマ「都市のコア」が叫ばれてから久しい。当時於てさえ

も機能主義一辺倒の都市を人間の住める環境として取り戻すことを願ったものであった。

従って私達の研究室に於ても、具体的な対象として江東区の運河河川に数年来取り組んでいる。それは、昭和52年に区の再開発基本構想の見直し計画に私が参加した時からであった。

外部から見れば、江東区はゼロメートル地帯が広域に亘り、ゴミ集積のまち、生活環境に必要な緑や公園が少ない。台風等による風水害を受け易いなどと、生活環境評価から言えば、マイナス面が多い。しかし住民の意識調査では住み良いまちと答えががえってくる。これは人々の生活に対する連帯感が過去から受け継がれて、いわゆる下町情緒がいまだに存在していることの表われであろうか。したがって、新しい江東区の都市像として、人間の住むまちであり、住み良いまちと云うことである。住み良いと云うことは、人間にとって安全であり、健康的で、気力があふれ、人情豊かな環境が出来ることである。もし緑、公園、遊び場の少ない住環境に運河、河川を核として地域の中にあるおいのある緑のネットワークが造られ、それ等が貴重な文化遺産としての史跡等を結ぶとすれば、従来から云われているマイナス面は解消され、むしろ新しい環境として個性のある地域を創造することも可能ではないだろうか、私は調査の一環として江東区の運河、河川をボートで回ってみた。日頃、まちの通りから眺める限り高い堤防に阻まれて、まちとは関係のない様に見える運河河川が、実は人々の生活と関わりがあることがわかった。また運河、河川の川べりには活用を待っている貴重な土地が意外に多いことにも気が付いた。これ等の河川に親水機能を持たせることが出来たら都市はどの様に楽しい、すばらしい環境になるだろうか。



## 大学の発展は校友の協力で

電子工学科教授

長 嶋 秀 世

私が工学院大学卒業した昭和39年頃、大学は新宿の駅から見通せるくらいのかで、大学の裏手には淀橋浄水場が満面に水をたたえていました。今日では、大学の近辺はマンモス都市東京の新都心として発展し高層ビルが林立しておりますが、大学は旧態依然のままです。本来、工学院大学は工手学校の昔から名門であったにも拘らずここ10年位の間にそのレベルは急激に低下しつつあると言われております。何故このようなことが起ったのか。これは次の事に原因していると思われまふ。工学院大学には痛みを感じずの経営者の居ないことです。大学が発展しなくても、あるいは赤字経営で従来からの財産を食い潰しても誰も痛みを感じないのです。工学院大学の歴史を紐解けばわかることですが、大学は卒業生達の多大な努力によって創設されたという事実を真剣に考えてみなければいけないことです。すなわち、本学の欠陥の一つには本当に痛みを感じることのできる先輩諸氏が大学の運営に関与していないことであると思われまふ。

早稲田、慶応はもとより青山学院、上智大なども多くの卒業生が大学の運営を行い、教育に携わり、事務を執っております。ところが本学ではOBの事務員は計算機関係の職員を除くと就職事務の高橋さんしか私は知らない。また、教員にしてもOBの先生方は少なく僅かに電気系学科にのみ曙光を見出すのみである。

私がここで申し述べたいのは卒業生が万能であると言っているのではありません。卒業生の母校に対する愛情というものは計り知れないものであり、その人達は労を惜しむことなく大学の為に働いてくれると思うのです。

しかし、残念ながらOBであるにもかかわらず大学の為に努力しないだけでなく、大学にとってマイナスとなる人達がいることも事実であります。このような人達には母校に対する愛情がないと疑わざるをえませぬし、他の人達に対して決して良い影響を与えているとは思われませぬ。もし、責任を感じるならば少なくともマイナス

にはならないようにしていただきたいと思ひ、それができなければその職を去っていただきたいと思ひ。

母校に愛情を持つ多くの校友諸氏に対してお願いしたいことは、大学内のOBに対しては厳しい叱責と指導を、そして一片たりとも曇りのない純粋な気持ちで大学の運営に携わっていただきたいと思ひます。

さらにもう一つお願いしたいのは、多くの校友の中には卓越した知識と技術を持った方がたくさん居られると思ひます。その人達は恐らく人の上に立つ管理職であつて多忙ではあると思ひますが、せめて土曜日でも非常勤の先生として後輩の学生達に現代社会で活躍している生きた知識を分け与えていただきたいと思ひております。

さて話は変わりますが最近の大学では、幸いなことに出身者でなくても大学に多くの愛情を持つ優秀な先生方が増えつつあり将来に明るい希望を持たしてくれます。

私達はこのような人達を大切に一緒に頑張って大学を良くしていきたいと思ひております。それがOBの義務でもあると思ひます。

今後も御指導、御鞭撻のほど宜しくお願い致します。

(11頁よりつづく)

においては、東京工科大学賛成12名、東京工科大学以外の校名で適当な時期に変更することに賛成9名、校名変更賛成16名、白票1計38名、又第2回(58.2.20)においては、[大学名変更]必要32名、不必要41、白票2、中途退席他2計77名という結果でした。又[大学名変更検討時期]は、将来計画具体的後・或は工学院の名前が内容と異なる時というのが、当時出席者の意向として記録されました。

※校友会組織改正(案)について

校友会と同窓会が合併して新正校友会が発足して以来、本部組織の6部は、総務、経理、編集、広報、事業、支部拡充で構成されておりましたが、今回、本会の現状に合わせるため次の様な変更案を総会に提出することとなった。総務部、財務部、企画部、広報部、事業部、組織部。これ等6部は、常任理事会を核に、それぞれ独自の活動を展開し、校友会組織の活性化を計る事となる。



## 「等しき論」と「落ちこぼれ」に考える

— 能力に応じた教育を —

学生部長 小 倉 清

全国平均93%、東京97%、これは最近の高等学校への進学のパークンテージである。この数値だけをみると日本もいよいよ世界屈指の「教育大国」にと喜びたいところだが、唯喜んでばかりおられない。問題はその「中身」である。

先日、指導主事をしてる友人に久しぶりに会い、最近の高校生の実態を聞かされ全く駭然とした。(筆者も20数年前、都立N高校に勤務していた)

第一に何のために高校に入学したのか目的意識のない生徒が大部分のこと。第二に字を知らない(読めない、書けない)、計算ができない。——しかし考えてみるとこの現象は少しも不思議なことではなく、起るべくして起つたものである。

何故なら——目的意識がないのは、生徒自身に積極的な進学の意志がないにもかかわらず、親が無理に高校ゆきを勧めたとか、同期生が殆んど進学するからとか、親の見得や、まわりの力に流されて何となく入ってきたからである。学力がないのは前述の全入に近い進学率を見れば当然ともいえよう。

恐らくこの進学率ではI.Q.(知能指数)73ぐらいの生徒まで高校に入っている筈だというのである。I.Q.73ではせいぜい小学校の教科課程を消化するのにやっとの知能程度である。

中学までは義務教育だからついていけない子供が多少いても止むを得まいが、高校にまでそのような生徒を入れるのは考えものである。第一にその生徒がかわいそうである。他の生徒の迷惑になる。公費の無駄使である。どうしてこんなことになったのか——これは戦後教育における「等しき論」がその犯人である。教育基本法は「すべての国民はひとしくその能力に応じた教育を受

ける権利を有する」と謳っている。このこと自体、正論である。しかし戦後教育は「能力に応じて」を無視し、「ひとしく」だけを強調するの過ちを犯したのである。

一部の考え方の誤つた教師達によって進められ、一時マスコミ等を賑わし話題となった「オール3教育」、「差別をなくす教育」、「高校全入運動」など愚かな平等主義である。人間に能力差のあることを無視して、やたらと高校の数を増やし、門戸を拡げた結果である。

授業について行けない生徒は教師間では「お客さん」と呼ばれて厄介者扱ひされている。生徒にとつてもこんな不幸なことはない。

義務教育である中学校で現在、毎日の授業についていけない子供はクラスの中、半数以下とも殆とも聞く……やがて劣等感から非行に走る生徒も多いという。そのような生徒には、高校でなくても例えば技術を身につけるなど、能力にふさわしい教育を与えることができる筈である。

親達はこの際、つまらぬ見得を捨て、もっと子供中心の、子供の真の幸せにつながる教育とは何かを考える——そして生徒自身、皆がいくから私もではなく、もっと自主性を持ち、自分に合った学校、自分の能力を伸ばす学校を選ぶことは出来ないものだろうか。

そして最も大切なことは行政レベルにおいて能力差を認める教育を勇気をもって進めるべきである。

教育は国家百年の大計といわれる大事なものである。

# 昭和57年第5回全国大会(京都大会)報告

## 広 報 部

本年の全国大会は、全国的に地の利のよい京都を選び、また理事長始め学園より多数の御来賓を仰ぎ開催された。

とき 昭和57年11月27日(土)～28日(日)  
会場 京都市東山門山知恩院北入「楠荘」  
出席者 招待者 11名  
会員 120名(夫人同伴6名を含む)



受付風景

大会開催前に13.00時より知恩院別館和順会館で建築科同窓会、各科同窓会参加による高山理事長先生と建築学科波多江主任教授を囲む会並びに応化会の総会が開かれた。

大会は楠荘大宴会場で、午後4時より木村(京滋支部)、熊田(大阪支部)両大会委員の司会で開催された。

1. 開会挨拶 岡本副委員長(兵庫)
2. 運営委員長挨拶 石川委員長(京滋支部長)
3. 会長挨拶 足立副会長(前島会長代行)
4. 来賓挨拶 高山理事長
5. 本大会の経過と特徴等ならびに翌日市内見学の説明 落合副委員長
6. 閉会の挨拶 庭野副委員長(大阪)
7. 記念撮影(表紙写真)

### 高山理事長挨拶要旨

1年半前の昨年4月に理事長に就任し、恩師東大総長内田祥三先生との関係の深い学校でもあるので一生懸命奉

公したいと思っている。

単科大学の健全な発展は経済的にも大変である。私学独自の道を歩まねばならないことを卒業生の皆さんも学校に大いに関心をもってほしい。校友会と学校当局と交流し相互が団結して、100周年に当たっては校友会全体と学校と協力していきたい。

今日配布した、「窓」50号学園創立95周年記念特集号(工学院大学学園広報委員会発行)は95周年事業の真髓であり、この内容が大学の状態の新しい資料である。都市型大学のことを特に読んでほしい。第49号の「大学名変更について」(伊藤学長)も併せて読んでほしい。

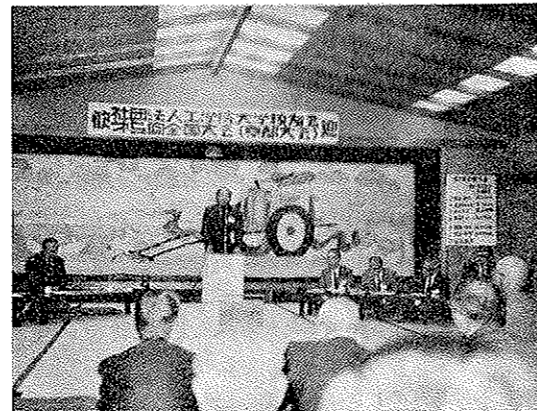
将来の構想として、私が参りましたとき

1. 売却し郊外に移転する方法
2. 売却せず再開発していく方法

がありました。周辺の発達、交通の中心地として地価も高価であるが、工科専門校として、夜間通学に対しても便利である等々の条件に恵まれている。

移転は物理的にもむずかしいし、文部省関係もむずかしい、そこで大研究機関は八王子に充実し、本部、小研究、2部、其の他を新宿の現地で持ちこたえ、新宿校地の半分の新校舎を建て、後にもう一棟を建てる再開発を検討した。その大綱第2案を近く発表し、皆さんの意見をも入れて修正していきたい。

八王子整備費用は私学振興財団より借入し、新宿開発



高山理事長挨拶

は大きな借金をせぬ方針である。高等生涯教育施設、先端企業と提携した研究機関とトップレベルの再教育の場の二点で社会の需要にもとづきやっていきたい。

この型で、第3の改革として新しい校名を作り新しく出発していきたいのが学校側の意向です。

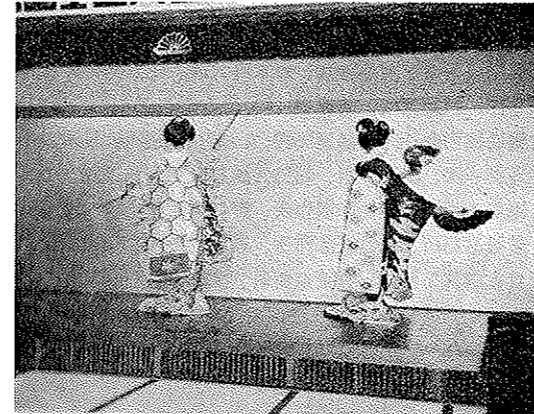
次いで第2部懇親会が午後6時、高橋(兵庫)鈴木(大阪)両委員の司会で大宴会場で始まった。

開会の挨拶を近藤委員(大阪)、乾杯は長老月原元校友会々長の一声で宴に入る。

来賓11名の紹介を小野塚副委員長が行った。(理事長、常任理事、名誉教授、主任教授、各校長、各会長)

演芸は舞妓さんたちの京踊りで始まる。教組、教人が舞妓さんを囲んで、舞台上で記念撮影が始まり、次に飛び入が始まり、宴は次第にたけなわとなる。

8時30分近く、常務理事草野先生の発声で校友会の万才、次いで校友会よりの学園万才を三唱し、奥浜委員(兵庫)の挨拶で大会を閉じた。



舞台風景

明けて11月28日(日)朝食を終へ、見学のための集会所、東山の流、紅葉の美しい円山公園を初冬のやや冷やかな晴れた京都の朝を心よく30分程各自散策した。

高台寺の参観は落合副委員長の綿密な手配により、普通は拝観出来ないところを参観できた。

開山堂(秀吉の軍船の天井と北政所の御所車の天井の遺材を用いたもの)、そして霊や(みたまや)(北政所の遺骸をまつってある処)特に御厨子は高台寺時絵で有名、茶亭の時雨亭と傘亭(秀吉遺愛の席という)を見学し、再び円山公園に戻り浄土宗総本山知恩院を参拝した。

日本最大の三門(1619建立)をくぐり、御影堂(本堂)(1639建立)に昇殿参拝し、鶯張り廊下を通り方丈(1641建築)へいき抹茶を一服頂いて三門で解散した。このようにして、冬日和の円山公園を思い思いのグループが各方面人と散らばって行った。(金尾武彦記)

尚、実行委員及寄付者は下記の通り。

- 委員長 石川 太一(京滋支部長)  
副委員長 落合 康夫(総務部長)  
同上 庭野 七郎(大阪支部長)  
同上 岡本 聖治(兵庫県支部長)  
委員 木村左右吉(京滋支部常任理事)  
" 伊藤 肇( " )  
" 鮫島真一郎( " )  
" 奥浜 良男(大阪支部副支部長)  
" 上月 功( " )  
" 吉田 清風(学校法人調査企画室長  
校友会事務局長)  
" 若林 貞由(京滋支部幹事)  
" 熊田 大輔(大阪支部常任理事)  
" 森川 勇( " )  
" 鈴木 富博( " )

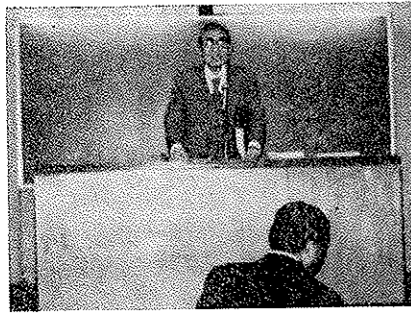
寄付者

学校法人 工学院大学、大阪支部、兵庫県支部、前島為司、愛知県支部、東光電気工業(株)、工学院大学後援会、京滋支部、清水建設、工学院大学高等学校、工学院大学高等学校PTA、高山英華(工学院大学理事長)、草野遼(工学院大学常務理事)、鈴木敬次郎(工学院大学専門学校長)、強力造船所(強力辰夫)、出口造船所(出口元夫)、マスコン(舛井寛一)、関口組(関口城吉)、小月製作所(重村伝平)、阿久津利、富永製作所(石川太一)、丸の内熱供給(鈴木昇太郎)、村上建設工業(村上銀次郎)、東海機材(近藤正次)、大岡製作所、丸彦渡辺建設、幸田秀一、坂口義雄、昭光製作所(小野塚政雄)、辯原興産(足立剛一)、山浦正夫、丹羽宏之、日本エネルギー(富所良二)、落合良生、明和製作所(月原貢)、須賀工業(島田土木(島田金次)、北野均、高野孝、相野谷重信(大学後援会)、谷口宏、伊藤肇、中根孝、竹内秀樹、伊藤真治、樋口利一、落合康男、宮本陸一、岩田俊二、小倉武、戸部英端。

# 昭和58年新年懇親会 広報部

新年懇親会を事業部の担当として催すことになって今回は2回目、会場を大学新宿校舎8階の会議室で催すということは、冗費節約と懇親の目的効果を充分に考えた揚句のことと察する。

しかも今回は懇親会開催の前に、電子工学科教授の西野治先生の講演をお願いするという画期的スケジュールで飾った。



西野教授講演  
次 第

- 第一部(講演) AM11.00 於4階講堂(司会吉岡理事)
- 開会の挨拶 内山副会長
- 特別講演 計測工学について 電子工学科教授 西野治
- 閉会の辞 足立副会長
- 第二部(懇親会) PM12.30 於8階第1第2会議室
- 開会の挨拶 篠原事業部長(司会 丹羽理事)
- 遠来者紹介 小野塚支部拡充部長
- 恩賞者の紹介 落合総務部長
- 乾杯 富所副会長
- 福引
- 学園歌斉唱 森山副会長
- 母校万歳 榎本広報部長
- 校友会万歳 伊藤学長
- 閉会の辞 小高副会長

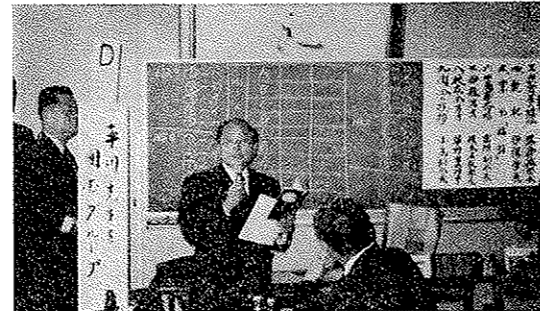
当日は来賓として高山理事長、伊藤学長、草野常務理事、正木教授、小暮学生部長(教授)、鈴木専門学校長、遠藤高等学校長、宮越高校教務主任、江口同副校長の出席があり、出席者総計約80名あり盛会であったが、新しい試みのクイズと、何と言っても当日の庄巻は懇親会席

上、出席各先生方を囲むテーブル別に抽籤により若いも若きも一緒にグループを使って懇談するとともに、テーブル毎に配られた歌詞の印刷物によって、よく知られている唱歌、流行歌などを斉唱するという発案で、今回で2回目である。



パーティー風景

- 賛助協力者 前島為司、鈴木昇太郎、足立剛一、松本与作、只野文哉、北野均
- 賛助協力会社 前島建設(株)、丸の内熱供給(株)、日本エネルギー(株)、(株)関口組、(株)三A調査、清水建設(株)、東光電気工事(株)、(株)明和製作所、野沢電機工業(株)、(株)小林建設事務所、(株)富永製作所、荏原電業(株)、東京広化、日本磨料工業(株)、(株)東京新研、大起建設



クイズ成績発表

今回のような集りにより、お互いのコミュニケーションが行われ、目下の懸案である学園将来計画その他の問題が円満かつ積極的に進行、解決してゆくことを心でひそかに祈った。(角田)

## □ 近況報告

### ◇ 学校法人 ◇

#### (1) 名誉顧問の称号贈与について

学業成績優秀な学生に対する奨学基金として500万円寄付された本学園前監事の岩城福三郎氏に対して、昨年12月17日名誉顧問の称号を贈与しました。

#### (2) 寄付受贈等について

本学園前監事岩城福三郎氏より大学学部学生及び専門学校生徒の奨学基金のため500万円、建築学科25周年記念事業実行委員会から建築学科25周年を記念して、建築学科学生への奨学基金のために100万円、昨年度高等学校を卒業した卒業生父兄から学債返還辞退による13万円、大学後援会から富士吉田セミナー校舎用に植栽及びビロティ、グラウンド用ベンチ新設工事、テーブル等備品費用として9,271,200円並びに一般寄付金として3,000千円、その他日本重化学工業(株)から化学工学科須田研究室に研究施設費として2,802,000円の寄付がありました。

#### (3) 工学院大学教育振興協力募金状況について

3月26日現在

払込件数 902件(前年同時期873件)

払込金額 72,682千円( // 57,043千円)

ただし、この中には前監事岩城福三郎氏からの500万円、日本重化学工業からの2,802千円が含まれております。

#### (4) 富附行為一部変更について

昭和57年9月に富附行為改訂委員会が設置され、当法人富附行為の一部改訂について検討が進められていたが、3月17日付で文部省に富附行為一部変更認可申請を行った結果、58年4月1日付で認可されました。

#### 富附行為の主な改訂箇所

- 理事定数一職務上理事を1人増員したこと等により現行「11人」を「11人以上13人以内」に改め、学識・経験者理事の定数を3人以上5人以内として調整した。
- 理事の選任一職務上理事については、学園全体が総

合的に発展するような経営戦略をとるため、各学校の教学の責任者である各学校長が理事として学園経営に参画する必要があること等を勘案し専門学校長を職務上理事に加え現行「2人」を「3人」に改めた。

#### 3. 評議員互選理事の選出方法の明確化。

4. 48年以降欠員となっている職務上評議員の大学幹事を削除し、代りに主任教授評議員を1人増員した。

#### (5) 工学院大学評議員会建設委員会の設置について

学園施設の建設に関して、評議員の意見を十分に反映させ、ひいては学園経営への積極的協力を行うことを目的とした建設委員会を評議員会内に設置することになりました。

#### (6) 八王子校舎学生部室棟地鎮祭について

昭和58年度建設予定の学生部室棟地鎮祭が3月30日(火)10時30分から八王子校舎で執行された。

(総務部長 玉置)

## ◇ 大 学 ◇

### ★ 昭和58年入試状況について

58年度入試の全体的な志願者動向は、就職好調とメカトロニクス・ブームを反映して、昨年に引き続き理工系に志願者が集中した。中でも、工科系単科大学が軒並みに大幅アップとなった。

本学の志願者も、やはり57年度(17.5%増)に引き続き27.6%の伸びを示した。

これを学科別にみても、機械系学科が58.3%、電気工学科が24.5%と予想どおり順調な伸びに対し、工業化学科が100.4%、化学工学科が17.8%と昨年まで志願者が少なかった化学系が急増となったのが特筆される。また、逆に昨年まで人気高調で難化傾向の電子工学科が1.8%増の低調な伸びに終わり、建築学科が12.3%増で、全国的に年々減少傾向にある中で、やや復調をみせた。(表一参照)

このように、2年続きの理工系ブームが見られた。し



(表1) 学科別志願者数・受験者数・合格者数等

部	学科名	定員	志願者	競争率	対前年度増減	受験者	合格者	実質競争率	
								58年度	57年度
第一部	機械系学科	180	3,423	19.0	1,260	3,341	484	6.9	3.3
	工業化学科	80	1,074	13.4	538	1,046	306	3.4	1.6
	化学工学科	50	524	10.5	79	511	129	4.0	1.9
	電気工学科	90	1,883	20.9	370	1,851	303	6.1	3.3
	電子工学科 (電子工学コース 情報工学コース)	90	2,931	32.6	51	2,858	627	4.6	3.9
			1,777		60	1,731	382	4.5	4.2
			1,154		▲9	1,127	245	4.6	3.7
建築学科	150	1,602	10.7	175	1,569	479	3.3	2.8	
合計	640	11,437	17.9	2,473	11,176	2,328	4.8	3.1	
第二部	機械工学科	120	166	1.4	32	115	60	1.9	1.3
	工業化学科	90	61	0.7	5	45	24	1.9	1.3
	電気工学科	110	231	2.1	21	187	121	1.6	1.4
	建築学科	110	144	1.3	▲39	114	51	2.2	2.3
	合計	430	602	1.4	19	461	256	1.8	1.6

注：▲印は減

かし、昨年度まで高い志願率を誇っていた電気・電子・機械の中では、電気・電子が伸びなやみ、逆にこれまで人気にいま一歩の感のあった、化学系が好調であった。これは、電気・電子が難化したために敬遠した受験層が、就職好調の機械系に流れたり、あるいは比較的入りやすい化学系をめざすといった現象と、昨今の、化学分野の開拓による業務拡大と相まって、ようやく化学系学科にも志願者が増加する傾向があらわれてきたものと推測される。

★昭和57年度卒業生数と就職状況について

昭和57年度第32回卒業式は3月19日に挙行了しました。卒業生数と就職状況を示すと「表-2」のとおりで、卒業生は第1部848名、第2部197名、合計1,045名で在籍者数に対する合格率は第1部78.8%、第2部44.8%であるが、卒業論文着手者数に対する合格率は第1部99.3%、第2部86.8%となっており、例年に似た傾向である。

就職希望者は1・2部で1,010名で、全員が就職を決定した。本年度の特徴は、求人早期化に伴ない、求人学生1人に5社以上の求人があり、売り手市場で理工系

の人気の相変わらずだった。第二次産業からの求人が多く前年と大きな変動はなく、求人企業5,076社、求人延人数17,653人という状況で、好結果に結びついた。

アンケート調査による就職先の満足度は、大いによかった62.2%、よかった36.2%、少し不満1.6%で、98%の学生は満足できる就職であったといえる。

(表2) 昭和57年度卒業生の進路 (S58.3.31現在)

学科	卒業生数	卒業生の進路		就職者の内訳				
		進学者	就職者	一般企業	公務員	教員・自営業	その他	
機械	197名	5	192	180	9	1	2	
生機	87名	1	86	79	2	2	3	
工化	128名		128	116	4	1	7	
化工	74名	2	72	58	5	1	8	
電気	167名	3	164	147	4	5	8	
電子 (含情報)	125名	9	116	110	2	1	3	
建築	267名	15	252	218	8	2	24	
合計	1,045名	35	1,010	908	34	13	55	

★昭和57年度大学院の学位授与関係について

(1) 工学博士の学位授与

本学大学院では下記のとおり課程博士1名、論文博士2名に学位を授与した。

(課程博士) 近藤 仁

論文題目「二重鎖構造を有する含リンおよび含ケイ素ポリマーに関する研究」

(論文博士) 椎塚久雄

論文題目「3一端子RC非一直並列回路の性質とその構成問題への応用に関する研究」

(論文題目) 横山修一「誘導円板形継電器の解析的方法による周波数及び温度特性に関する研究」

※本学で本年度までに授与した博士の数は課程博士6名、論文博士17名となった。

(2) 工学修士の学位授与

修士課程修了生

専攻別	機械工学	工業化学	電気工学	建築学	合計
修了生	5名	2名	4名	12名	23名
累計	102名	84名	126名	150名	462名

(3) 本学の大学院は、最近外国人(タイ・中国・イラン・イラク等)の入学者もおり国際的にも学術的にも、大学院の知名度が高まってきた。

★地方父母懇談会について

工学院大学後援会は昭和25年に発足し、今年で足かけ33年になる。この後援会の活動は主として大学への厚生施設の補助および学生の文化・体育等の諸活動の奨励と後援であった。

55年度の秋から後援会地方父母懇談会が発足した。その計画は平川常務理事、相野谷後援会々長が中心になって進められてきた。また後援会理事会においてもこの企画について全員一致の賛同を得た。この地方父母懇談会の目的は在学生の地方在住の父母の方たちに学園の実情を知っていただくと同時に学園に対する地方在住の父母の方たちの声を、直接に伺っていくこととであった。またこれと並んで学園側としては、知名度の低い工学院大学の名を父母を通じてP・Rしていきたいということもあった。これまですでに8支部が誕生し、大学を

支える有力な組織体として成長を遂げている。また58年度には更に6支部が誕生する予定である。

教務部長 宮嶋 堯

教務課長 高橋 正之

◇高等学校◇

《主な行事》

○57年度は初めての試みとして、学院祭を10月2日・3日、体育祭を10月9日と、秋の二大行事を10月初旬の一週間内にまとめて開催しました。その結果、二つの行事が並行して準備できるので生徒会役員の負担が軽くなり、プログラムやポスターもそれぞれ併用できて経費も安く上がったようです。また、学校全体としても、例年と違って2学期の後半の二ヶ月を落ち着いた雰囲気の中で勉強に打込めるメリットもあったと思います。

○3年生にとっては2学期は進路を決める重要な時期ですが、その最大の関門の一つである工学院大学推薦試験が、今年も10月27日と12月6日の二回に亘って行われました。受験者は、普通科135名、工業科45名の計180名でした。この中から第一部126名、第二部16名の合格者が1月13日に発表されました。

○大学・高校連絡協議会は大学高校間の諸問題について協議し、相互の意志疎通を図り、理解を深める目的の機関ですが、個々の問題をより具体的に検討するため、小委員会が設けられています。前期7月1日に第一回の協議会が開かれていますが、その後小委員会が10月21日、12月16日、2月25日と三回開かれ、付属化を巡る大学と高校の関連の在り方、大学に推薦されるべき高校生の学力向上の方策等について討議されました。更に小委員会の討議を踏まえて、3月17日、本年度の締まりとして第二回の協議会が開かれました。

○3年生の通常授業は1月31日で終了していますが、三学期の考査のあと引続き2月5日から7日間、英数の二科目について、工学院大学推薦合格者の指名講習を行いました。受講者は116名でした。

○校友の皆様に関心事の一つは母校の入学志願者の状況だろうと思います。今年はここ十数年来の慣行を破って、考査日を従来の2月20日から2月18日に早めてみましたが、これが受験生や中学校筋に大きな戸惑いを与えたらしく、一部都立志向の上昇傾向と相俟って、応募者が予想外に減ってしまい、数年来の急減期を想像して、

教職員一同冷汗三斗の思いでした。新聞紙上で母校の志願者状況をご覧になり、ご心配の向きもあったと思いますが、幸い、二次募集で予測以上の応募者があり、最終的には、普通科212名、工業科226名、計438名の入学確定人員を得ましたのでご安心下さい。

《進学》

現在工学院大学進学者第一部126名、第二部16名の他、電通大短大(国立)、中央大、駒沢大、北里大、日大、秋田経済大等に合格しており、更に浪人中の先輩からも国学院大、明治学院大、中央大、北里大、日大などに合格の報が寄せられております。専門学校にも、工学院大学専門学校の42名を筆頭に、90数名の進学が決まっております。

《就職》

昨年亡くなられた宮澤先生の跡を継いだ岩崎、竹花両先生のご努力で、不況下の本年度も、例年通りの好調ぶり、希望者82名中既に75名が決定を見ています。主な就職先は下記の通りです。

三菱電機、岩崎通信機、沖電気、日本電気、日野自動車、富士重工、日本ラジエーター、電気化学工業、中央研究所、同和鉱業中央研究所、蛇の目ミシン、警視庁、神奈川県警等。

《クラブ活動》

- 自転車競技同好会、地味な存在ですが、10月、鹿児島団体に出場、準決勝まで進出しました。
- 柔道部 11月、関東新人大会の東京都予選第三位、2月第5回関東大会に出場、国士館高校に1-0で惜敗。
- サッカー部 東京都第七地区の決勝で府中西高校に3-1で惜敗。
- 野球部 秋の東京都新人戦地区予選に四位。
- 文化系クラブは後期は目立った活躍を見せていませんが、自然科学部、放送部などは新年度を目指して、活動準備に入っています。(高校 宮越美知夫)

◇専門学校◇

○57年度就職状況まとめ(3月15日現在)

	求人 会社数	求人数	求職数	採用数	採用率
昼間部	延	延	142	134	94%
夜間部	1,654	3,083	68	64	94%

主な就職先：清水建設34、東都大成バルコン10、日本瓦斯工業5、地方公務員4、大和冷機工業3、国土道路2、武蔵野工業2、池下設計事務所2、富士ゼロックス、東芝など。

○卒業生数(3月27日卒業式)

	土木	機械	造船	金属	電気	建築	化学	計
昼間部	40	51				91		182
夜間部	34	18	5	5	18	80	20	180
研究科						25		

○昼間部58年度入学志願者状況(3月28日現在)

科 別	入学 定員	志願者数			手 続 者 数		
		推薦	一般	計	推薦 (見込)	一般	計
土 木 科	40	27	37	64	26	36	62
機 械 科	40	40	105	145	37	63	100
建 築 科	40	89	123	212	86	54	140
電 気 技 術 科	40	32	51	83	31	31	62
電 子 情 報 科	40	30	135	165	28	55	83
環 境 化 学 科	40	15	43	58	15	29	44
合 計	240	233	494	727	224	268	492
57年度合計数	240	133	316	449	124	232	356

○夜間部58年度入学志願者状況(3月28日現在)

	土木	機械	造船	金属	電気	建築	化学	計
入 学 定 員	40	40	40	40	40	100	40	340
志 願 者 数	37	38	9	6	30	74	30	224
37年度志願者数	42	35	11	7	26	94	42	257

願書締切3月31日。志願者数は昨年比87%。  
○推薦入学は調査書と面接試験(一次11月4日、二次12月4日)により、一般入学は調査書と数学の学力試験(一次2月25日、二次3月25日)により選考した。昨年度に比べ志願者278名(62%)増、特に電子情報科が急増、機械科もかなりの伸びを示した。

○夜間部秋学期募集停止

夜学志望者の減少傾向が一向に好転せず、特に10月入学の秋学期応募者の激減に対処するため、58年度から秋学期の学生募集を一時停止することになった。それに伴い、半年毎に進級、2年で卒業という従来方式を、通年

方式に切り替えるための篤修制度の見直し、またカリキュラムを社会のニーズにより適合したものに改編する検討を重ね、この4月から早速新方式を実施することになった。

○本校々長学園理事に

専門学校々長を学園の職務上理事に加えることが、本

校関係者の永年の悲願であったが、去る3月14日の学園評議員会に於て、これを含む学校法人の寄付行為改訂が承認され、この月から実現することが決った。これについて特に強力なご支援を賜った校友の皆様、専門学校教職員一同から、深甚の謝意を捧げます。

(校務長 安原 豊)

□校友会だより

総務担当副会長 小 高 鎮 夫

昭和56年度の校友会活動を理事会その他の活動を通じて御報告致します。

第1回理事会(57・4・14—水—)

- 議事 1. 56年度事業報告書承認の件  
2. 56年度収支決算承認の件  
3. 評議員・役員任期変更の件  
4. 准会員制度の件  
5. 57年度全国大会開催の件

第2回理事会(57・5・30—日—)

- 議事 1. 賛助会員費の件

第3回理事会(57・6・25—金—)

1. 昭和57年度行事予定表の件  
2. 会報年2回発行の件  
3. 総会後の諸問題の処理の件  
4. 校名変更の件

第4回理事会(57・9・10—金—)

- 議事 1. 会報年2回発行の件  
2. 賛助会員に関する規定(内規)の件  
3. 支部長会議の開催の件  
4. 全国大会運営委員追加の件

第5回理事会(57・11・19—金—)

- 議事 1. 事務室整備の件  
2. 同窓会資金運用の件  
3. 校友会特別積立金の件  
4. 校友会の円滑運用の件  
(58年度事業計画並びに予算案提出)

第6回理事会(58・1・27—木—)

- 議事 1. 学園将来計画改訂案の件  
2. 校名問題に対する対応の件

第7回理事会(58・3・24—木—)

- 議事 1. 大学名変更の件  
2. 評議員、役員選出規定の件  
3. 校友会組織改正の件  
4. 昭和58年度事業計画の件  
5. 昭和58年度収支予算の件  
6. 准会員の件

※学園将来計画大綱答申について

58年3月15日の第9回学園将来計画委員会において、昨年10月に発表された「学園将来計画大綱」に対する「再改訂案」が承認された。その後理事長に提出され、常務理事会を経て理事会で審議される事となった。今後は要綱におろす作業が進められ、次に課題計画の検討が行なわれる。又この大綱(再改訂案)は10年先を見込んだ第一期計画であるが、第二期計画の検討は第一期計画が軌道に乗り次第、続いて始められることとなった。

※大学校名変更について

昨年3月5日、学園理事長名で「大学校名変更の件」について校友会に「東京工科大学」はどうかとの打審による変更依頼の文書が参りました。そのため校友会の意見をまとめるために、校友会代表者会議を開き校友の幅広い意向調査を行うことになりました。第一回(57.5.9)(2頁へつづく)

昭和57年度事務報告

(総務部)

1. 会議の開催状況は下記の通り。(回数)

総会(5/30)	1
評議員会(5/30)	1
支部長会議	1
理事会	7
常任理事会	12

この外、各部会、各種委員会等が多数開催された。

2. 校友代表者会議の開催

大学名変更問題を討議するため、校友会代表者会議を2回(57.5.9及び58.2.20)開催した。

3. 支部組織のブロック化

支部長会議、及び支部問題委員会で検討の結果、支部組織をブロック化することが決定した。

4. 下記の支部で、支部総会が開催された。  
広島県、愛知県、相模、武蔵野、大阪、京滋、川崎、山形県、兵庫県、和歌山県、東京練馬、新潟県、横浜、東京板橋

社団法人 工学院大学校友会 第37回評議員会 第27回総会 開催お知らせ

会長 前島 為 司

- 日時 昭和58年5月29日(日)12時30分~17時
場所 工学院大学第1会議室(新館8階)
議案 (資料参照)
第1号 昭和57年度事業報告書並びに収支決算書承認の件
第2号 昭和57年度財産目録承認の件
第3号 昭和58年度事業計画(案)並びに収支予算(案)承認の件

- 第4号 定款施行細則一部変更の件
第5号 役員選出の件
(注) 1. 本誌に同封の郵便はがきにより、折返し出欠の有無をご回答下さい。
2. 施行細則第8条により、当該議事について意志表示のない場合は、同意の意志表示とみなして、出席者数に加えることができますのであらかじめご了承下さい。
3. 当日は昼食(軽食)の用意をいたします。

昭和57年度事業報告書

Table with 2 columns: 事業に関する定款条文, 事業内容. Rows include school facility improvement, student activities, magazine publication, academic lectures, and parent support.

昭和57年度収支決算書

Income and Expense Statement for 1977. Includes sub-tables for Income (収入の部) and Expenses (支出の部) with columns for item, budget, actual, and difference.

(註) 収入の部 ○増 △減 支出の部 △超

昭和57年度財産目録(昭和58年3月31日現在)

Balance Sheet for 1977. Lists assets like Basic Assets (基本財産), Current Assets (運用財産), and Special Reserves (別途積立金).

昭和58年度事業計画(案)

Proposed Business Plan for 1978. Lists activities such as school facility improvement, student support, magazine publication, and academic events.

昭和58年度歳入・歳出予算書(案)

Proposed Budget for 1978. Divided into Income (収入の部) and Expenses (支出の部) with detailed line items and amounts.

○賛助会費を別途積立とした為、57年度予算を一部修正した。
○専門学校は56年度の特別預り金を使用出来るので分担金は0とした。



昭和58年度別途積立金収支予算(案)

別途積立金(賛助会費)							
款 項	取 入 の 部			款 項	支 出 の 部		
	予 算 額 A	前 期 予 算 額 B	差 異 A-B		予 算 額 A	前 期 予 算 額 B	差 異 A-B
賛 助 会 費	2,806,589	500,000	2,306,589	賛 助 会 費	2,806,589	500,000	2,306,589
1. 会 費	1,050,000	485,000	565,000	1. 次 期 繰 入	2,356,589	485,000	1,871,589
2. 支 部 預 り 金	450,000	15,000	435,000	2. 支 部 預 り 金	450,000	15,000	435,000
3. 利 息	42,000	0	42,000				
4. 前 期 繰 入	1,264,589	0	1,264,589				

昭和58年度別途特別預り金収支予算(案)

別途特別預り金							
款 項	取 入 の 部			款 項	支 出 の 部		
	予 算 額 A	前 年 度 予 算 額 B	差 異 A-B		予 算 額 A	前 年 度 予 算 額 B	差 異 A-B
別 途 預 り 金	58,131,522	30,099,721	28,031,801	別 途 預 り 金	58,131,522	30,099,721	28,031,801
1. 大 学 校	15,850,000	11,272,000	4,578,000	1. 次 期 繰 越	52,739,522	30,099,721	22,639,801
2. 高 専 門 校	4,000,000	2,424,250	1,575,750	2. 運 用 財 産 に 繰 入	5,392,000	0	5,392,000
3. 専 門 校	5,000,000	3,530,000	1,470,000				
4. 利 息	1,800,000	450,000	1,350,000				
5. 前 期 繰 入	31,481,522	12,423,471	19,058,051				

(第4号議案資料)

定款施行細則一部変更(案)

現 条 文	変 更 条 文	理 由
第3条 第4条	(准会員) 第3条 准会員は本学園に属する各学校の在學生で、在学中に正会員費を納入するものとし、卒業時に正会員となる。但し准会員は民法上の社員としない。 第4条 第5条	(条文新設) 新校友会費徴収に伴い准会員制度を設ける。
3 4 5	3 常任理事会は、理事会の承認を得て、評議員若干名を選出し、又、理事候補者若干名を評議員会に推薦することができる。 4 5 6	(条項新設) 役員改選にあたって、業務をスムーズに遂行するため常任理事会推薦規定を設ける。
第5条	(業務分掌の機構) 第7条 この法人の業務を処理するため理事会に次の部をおく。 総務 経理 広報 編集 事業 支部拡充	(条文変更) 本会の現状にあわせるため、各部の名称と業務内容を変更する。
第6条 第7条 第8条 第9条 第10条 第11条 第12条	第8条 第9条 第10条 第11条 第12条 第13条 第14条	

大学校名問題に関する校友会代表者会議

理事(総務部) 間 宮 富 士 雄

去る2月20日(日)11:30~16:00大学校名問題に関する第2回校友会代表者会議が実施され、会議の進行は、次のごとく行なわれた。

次 第

- 司 会 落合総務部長
- 会長挨拶 前島会長欠席のため足立副会長が代行
- 経過報告 校名問題については落合総務部長が逐一詳細に、又学園将来計画については小高副会長が説明した。
- 座長・書記の選出 選出方法は司会者一任により座長は小高副会長、書記は間宮理事が選出された。
- 討議内容 次のとおり  
当日の出席者の学校別、科別の構成は次のとおりであった。

大学機械	15名	合計 77名
大学応化	8名	
大学電気	15名	
大学建築	15名	
高等学校	7名	
専門学校	17名	

大学校名変更賛成側の主たる意見は、

- ・学園の将来のためを考えるならば、校名変更は止むを得ない。学園将来計画と共に検討してほしい。
- ・理事長、学長の校名変更の説明を聞くと理解出来る。将来、工学院大学の発展のためならば止むを得ない。
- ・後援会会長として全国を3年間まわり、知名度が低いことを認識した。校名変更には賛成である。
- ・全国的な問題として校名変更を考えるべきである。校名を変えてもよいが内容の充実を計るべきである。
- ・校友会は今まで何をしてきたのか。校名をかえる事には賛成である。

- ・地方における大学卒業生は、校名変更には賛成である。
- ・校名問題と学園将来計画とは必ずしも一致しなくてもよい。校名問題は至急進行すべきである。

これに対し反対側の主たる意見は、

- ・校名を変更すると学園がよくなるという理由がわからない。よって反対である。
- ・改名の必要性があるかどうかを十分検討してほしい。新宿の再開発が先であり学校の内容の改善が第一である。時期が早い。
- ・伝統的な歴史を尊重すべきである。将来計画がすすみ、内容が改善されてから校名問題に移るべきである。
- ・学園将来計画が進行した時点で校名問題を検討してもよい。
- ・川崎支部としては校名変更は反対である。
- ・勤務先の卒業生19名の意見を調査したが11名は反対であり、どちらでもよいと云う意見が3名、こだわらないと云う意見が1名であり、よって校名変更は反対である。
- ・校名変更は学園将来計画の前提であり、将来計画の決意表明が必要。よって校名変更は時期が早いので反対である。

最終的に本日の会議の結末として、校名変更に関する代表者の意向をアンケートによりまとめ集計した結果は次のとおりとなった。

校名変更必要	32名
校名変更不必要	41名
白票	2名
中途退席その他	2名
合 計	77名

6. 閉会の辞 長坂副会長

会議終了後、懇親会に入り17:00解散した。

以 上

## □ 支部拡充部だより

支部拡充部長 小野塚政雄

### ○各支部の活動報告

会報103号発表後の総会を開催した支部は、新潟、福島、練馬、川崎、横浜、板橋支部、そして開催準備中の支部は埼玉、中野、中央、多摩、愛知、宮城、文京、台東支部です。賛助会費でも大変ご協力をお願い致して居ります。57年度の賛助会費として納入戴きその返還金が総合計503,700円にも達しました。これを5月の総会で報告し、支部別の納入比率で支部長よりの請求手続により返送致します。御協力有難う存じました。

### ○最新名簿の取扱いについて

各支部単位の名簿が出来つつありますが、予想以上に会員が増加し、移動或は区画整理等により返送が多く大変な浪費を致しております。各支部より申込み次第逐次発送しておりますが、より正確を期する為に皆様の修正協力をお願い致します。尚修正部分は必ず本部へ転記したものを送して下さい。

最新名簿のセット。

各支部会員音別索引表

〃 名簿

郵便発送用ラベル

以上の3組がセットされております。一人の会員の移

動先不明で、各同窓会、校友会、学校法人事務局等がまたまた大変な浪費をします。各人はまた移転先は必ず校友会本部までハガキで知らせて下さい。

### 原稿募集

工学院大学校友会会報は毎年4月と10月の2回発行することになりました。ついでには下記により原稿を募集致します。

#### 記

1. 随筆、紀行文、一般向きの論文
2. 各支部の情報
3. 叙勲その他校友会会員、卒業生の情報
4. 提案、その他

以上400字原稿用紙使用(横書き)必要に応じて図面、写真添えること。 広報部

### 編集後記

目下大きな関心を持たれている学園将来計画、それに関連する校名変更問題など重要な問題を抱えているので、それ等に関して出来るだけの周知を計る意味の内容の記事の掲載を心懸けたが、未だその機が十分に熟せず、内容不十分のまま、昭和58年度総会通知に期を合わせ会報第104号を発行することになった。各単体同窓会発行の会報その他と併せ読んでいただきたい。川崎支部副支部長鈴木和夫氏の原稿が誌面の都合上次回まわしとなったことをお詫びします。

(角田)

## 賛助会費徴収のお願い

会長 前島 為 司

昭和56年度の総会において承認をされました賛助会費を、昨年に引き続き正会員からも徴収させて頂くことになりました。同窓会、校友会の合併により、それまでの校友会費は、年会費納入者をも含め、現在迄一応徴収を見合わせておりましたが、新入生より新たに、大学20,000円、高校、専門学校15,000円の校友会費(同窓会費を含む)を学校卒業時迄に納入することになりました。

そこで正会員の皆様からも、校友会の定款の第6条2

項賛助会員の項を適用致しまして『賛助会費は1口2,000円以上とし、1口以上を毎年納入するものとする。但し、25口(50,000円)以上又はこれに相当する物品を一時に納入した場合は以後の納入を要しない。』という規定をもって賛助会費の徴収をお願い致したいと思います。現在校友会の運用財産は、定款に基づく事業を行うに足る資金はほとんどない状況です。会員一人一人の絶大な御協力をお願い致します。なお徴収された会費の一部は支部の援助金として活用されます。

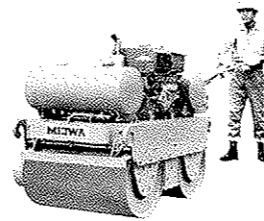
別紙振込用紙にて会費を郵送して頂くことで、賛助会員の登録手続きをさせて頂きます。よろしく願い致します。

# 明和の土建機

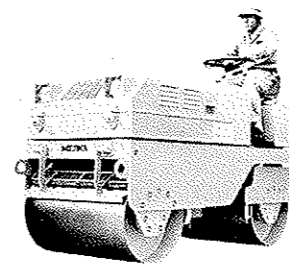
## 振動ローラ

### ハンドガイド

MRA-85型, 0.85t  
MRA-75型, 0.75t  
MRA-65型, 0.65t  
上下回転式ハンドル  
油圧式



- サイド転圧可能
- ステアリング軽快
- MVR-30型, 3.0t
- MVR-26型, 2.6t
- MVR-12型, 1.2t



## バックホウローラ

ベルト掛け式  
RA-120kg  
RA-80kg  
RA-60kg



## タンパローラ

RT-75型  
エンジン直結式  
オイル自動循環式



## バックホウプレート

- 修繕 P-9型
- 理装 P-8型
- 整形 VP-8型
- VP-7型
- KP-6型



社長 月原 貢 (機58)  
昭和43年春 勲四等旭日章  
昭和53年秋 紺綬褒章

## 新開発

### タイヤ鉄輪

アスファルト  
舗装最適

### コンバインド



センターピン方式

MUC-40型, 4t  
(前鉄輪・後タイヤ)  
MUS-40W型, 4t  
(前後共鉄輪)



## カッターリフト

MC-10型  
MC-12型  
MC-22型  
MC-30型



(カタログ連呈)

株式会社

# 明和製作所

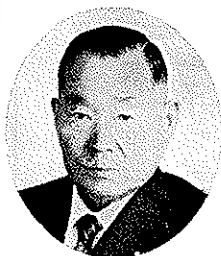
川口市青木1丁目18-2 〒332  
本社・工場 Tel. (0482)代表(51)4525~9  
大阪営業所 Tel. (06)961-0747~8  
福岡営業所 Tel. (092)411-0878・4991  
広島営業所 Tel. (0822)93-3977(代)・3758  
名古屋営業所 Tel. (052)361-5285~6  
仙台営業所 Tel. (0222)96-0235~7  
札幌営業所 Tel. (011)822-0064

編集兼 角 山 孝 助  
発行人  
印刷所 東京都中央区入船一丁目五十一番地  
弘報印刷株式会社  
電話(52)九七三三

発行所 社団法人 工学院大学 校友会

東京都新宿郵便局私書箱第十三号  
東京都新宿区 西新宿一丁目四十二番  
電話(三九二)二〇六四番  
振替東京一〇〇八番  
一六〇一九一

# 世界水準を誇る品質と技術



代表取締役会長  
計量士  
溝呂木金太郎  
(大正10年機械科卒)  
夫人 溝呂木雅之

圧力計 温度計

カロリーメータ 液面計



本社・東京支店



上田工場



熱技術センター



## 株式会社 長野計器製作所

本社	東京都大田区東馬込1丁目3番4号	03(776)5311 (代表)
上田工場	長野県上田市大字秋和1丁目5番0号	0268(22)7530 (代表)
東京支店	東京都大田区東馬込1丁目3番4号	03(776)5311 (代表)
大阪支店	大阪府東区北久太郎2丁目4番1号	06(261)7291 (代表)
名古屋支店	名古屋市中区錦1丁目1番20号	052(211)4551 (代表)
広島支店	広島市中区橋本町6番11号	082(228)2341 (代表)
九州支店	福岡市博多区博多駅前3丁目23番12号	092(472)1277 (代表)
札幌営業所	札幌市中央区南三条西12丁目325番地2	011(213)3145 (代表)
仙台営業所	宮城県仙台市一番町1丁目13番20号	0222(27)9331 (代表)
静岡営業所	静岡県静岡市依馬町2番地8	0542(53)4148 (代表)
四国出張所	香川県高松市瓦町1丁目3番地12	0878(22)8550 (代表)
富山出張所	富山県富山市八人町9番11号	0764(41)6949 (代表)
長崎出張所	長崎県長崎市光町5番20号	0958(62)5514 (代表)
アメリカ駐在事務所	PACIFIC SCIENTIFIC—Industrial Division 3020 N-Hesperian Way, Santa Ana, California, 92706 U.S.A.	TEL. (714)558-6964 TELEX. 68-5648
ブラジル連絡事務所	MITSUI BRASILEIRA, IMPORTAÇÃO E EXPORTAÇÃO LTDA. Avenida Bernardino de Campos, 58 Paraíso São Paulo, S.P., BRAZIL	TEL. 284-3011 (代表)